

hp r12000 xr バックプレート ソケット キット インストール インストラクション



インストールを開始する前に、
必ずこの説明をお読みください。

© 2003 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

hp r12000 xrバックプレートソケットキット
インストール インストラクション

初版（2003年2月）
製品番号 330871-021

概要

この説明では、資格のある電気技術者がHPバックプレートソケットキットをインストールする際に役立つ情報を提供します。この説明書は、将来必要になる場合がありますので大切に保管しておいてください。

注: このキットは、HP UPS（無停電電源装置）R12000 XRモデルでしか使用できません。

安全上重要な注意事項

このキットに同梱の『安全に使用していただくために』をよく読んでから、製品のインストールを開始してください。



警告:

- この製品のインストールは、ACおよびDC電源製品の取り扱い手順、注意事項、および危険性を熟知している専門の担当者が行ってください。
- バックプレートソケットオプションは、必ず資格を持った電気技術者がUPSに直接接続してください。
- バックプレートソケットオプションをUPSの端子に接続する作業は、必ず資格を持った電気技術者が行ってください。
- ユーザが修理できる内部部品はありません。

キットの内容

- バックプレートソケットオプション
- 『安全に使用していただくために』ガイド
- 本書

必要な工具と品目

次の工具が必要です。

- #3プラスドライバ
- マイナスドライバ
- 測定ツール
 - 7mm
 - 8mm

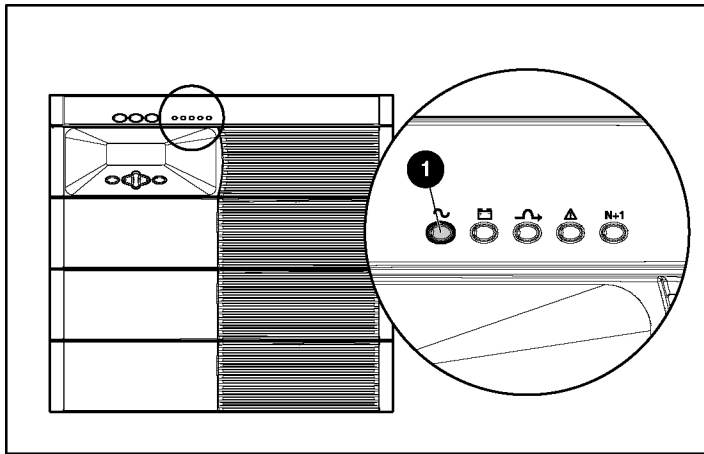
UPSの電源を切る



警告: この手順の実行中の感電やけがを防ぐために、ロックアウト/タグアウト手順を実行して、UPSをAC分岐回路 (AC電源) から切り離してください。ロックアウト/タグアウト手順は、ご使用の地域で定められた施設の安全および衛生に関する規定に準拠してなければなりません。

UPSの電源を切るには、以下の手順に従ってください。

1. スタンバイ ボタンを3秒間押して、UPSをスタンバイ モードにします。負荷リレーが開放され、ユーティリティLED (1) がゆっくりとした点滅を開始します。

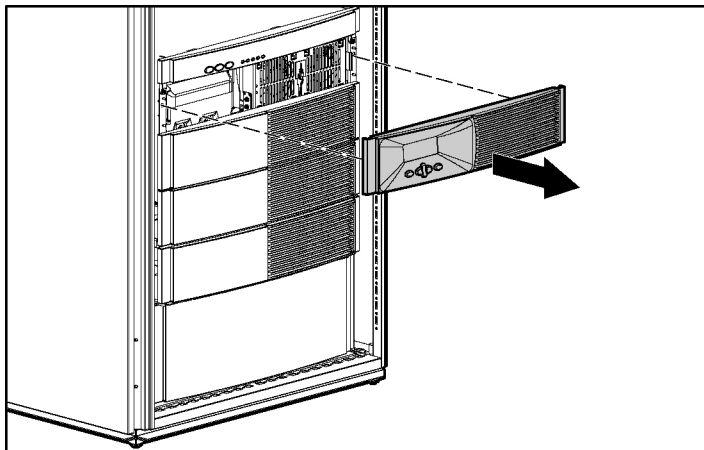


2. 分電盤およびロックアウト/タグアウトのスイッチまたはサーキットブレーカをオフにしてAC電源を切断します。

注: 初めてUPSをインストールする場合は、本書の「端子台を配線する」に進んでください。詳細については、UPSのインストレーション インストラクションを参照してください。

バッテリー モジュールおよび電子モジュールを取り外す

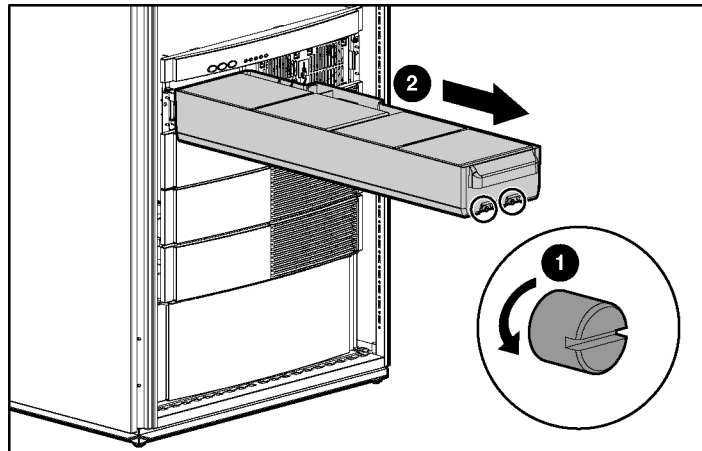
1. フロント ベゼルを取り外します。



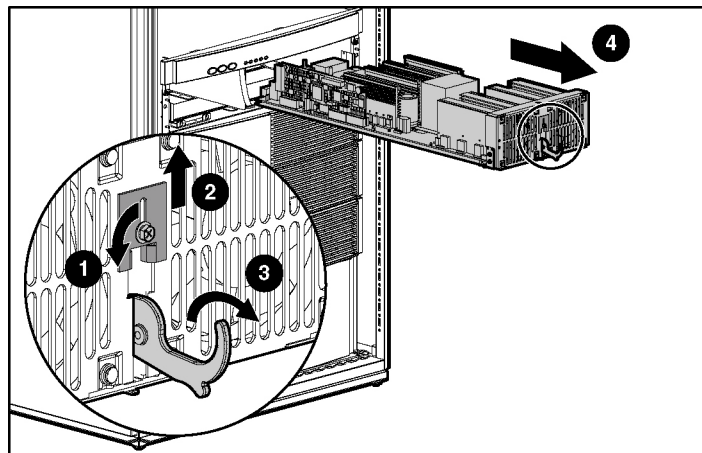
警告: けがを防ぐために、重量が27kgのバッテリー モジュールを取り外す場合には、十分なスペースを準備し、各地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。

27kg
60lb

2. バッテリー モジュールを取り外します。



3. 電子モジュールを取り外します。

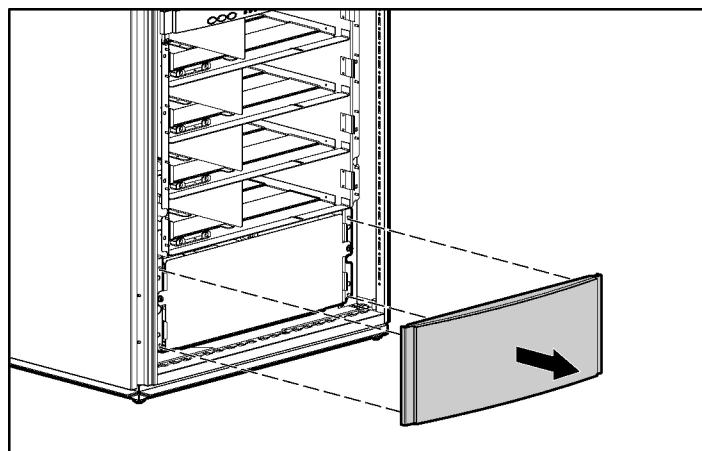


4. 残りのバッテリー モジュールおよび電子モジュールを取り外すには、手順1~3を繰り返します。

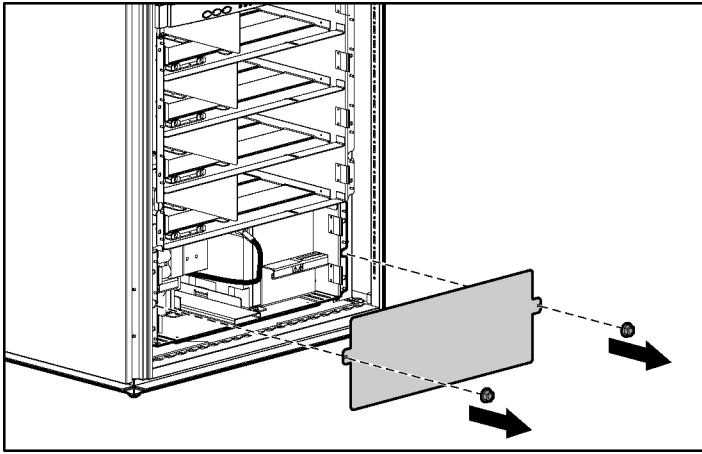
拡張ランタイム モジュール内のバッテリーを取り外す

重要: 拡張ランタイム モジュール (ERM) がUPSに接続されている場合は、ERMのバッテリーを取り外してください。

1. ERMのベゼルを取り外します。



2. フロント ベゼルを取り外します。

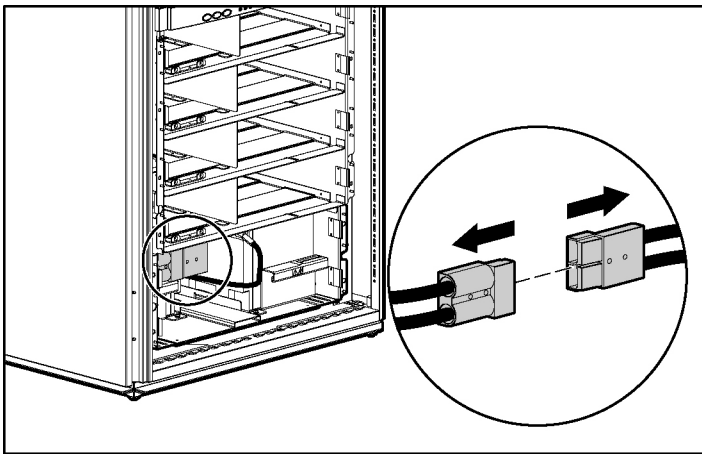


3. 左側のバッテリー モジュールを取り外します。

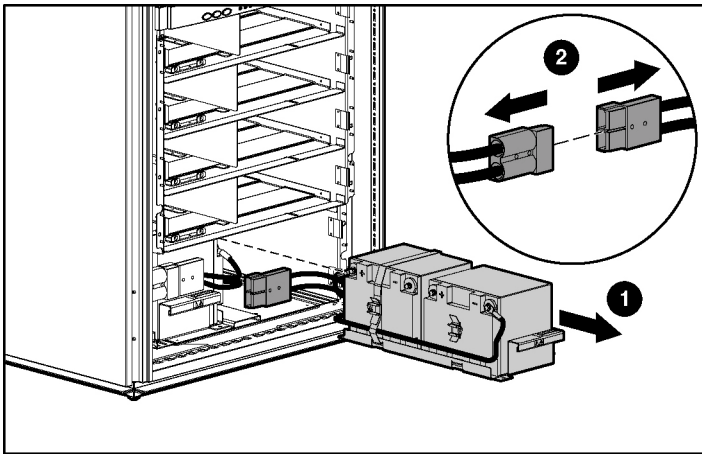


警告: けがを防ぐために、重量が34kgのバッテリー モジュールを取り外す場合には、十分なスペースを準備し、各地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。

34kg
75lb



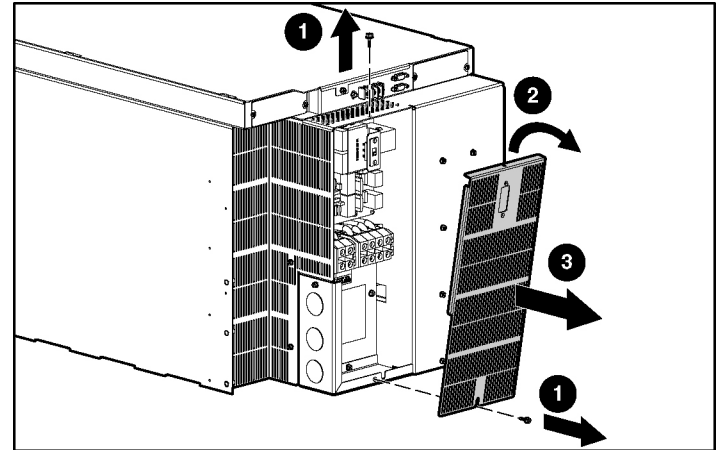
4. 右側のバッテリー モジュールを取り外します。



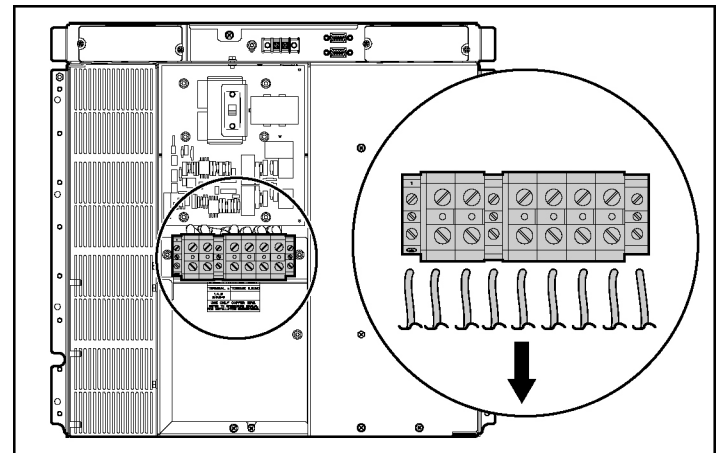
5. 他のERMがUPSに接続されている場合は、手順1~4を繰り返します。

バックプレート ソケット オプションをインストールする

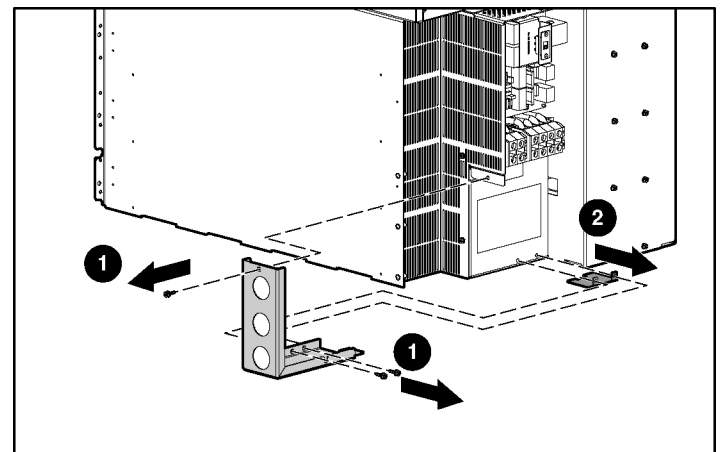
1. UPSの端子台カバーを取り外します。



2. 入力/出力配線を取り外します。

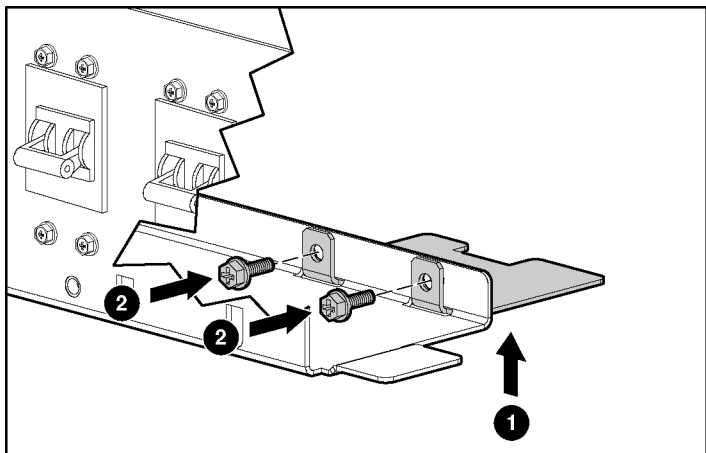


3. UPSおよびERMの配線ポート カバーを取り外します。

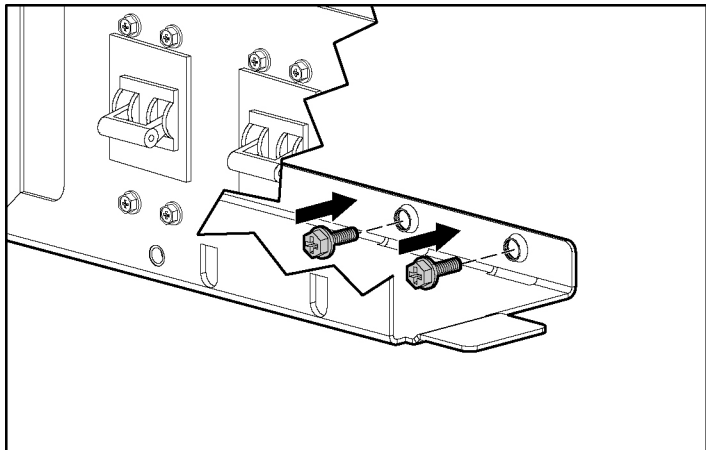


4. ERMがインストールされていない場合は、ERMの配線ポートカバーを取り付け、ネジを締めます。

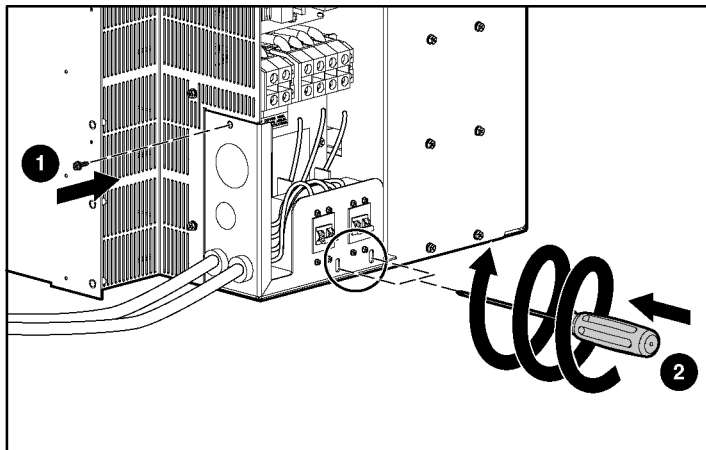
警告: ERMの配線ポートカバーを取り付けないと、けがをする危険があります。



5. ERMがインストールされている場合は、ネジを締めます。

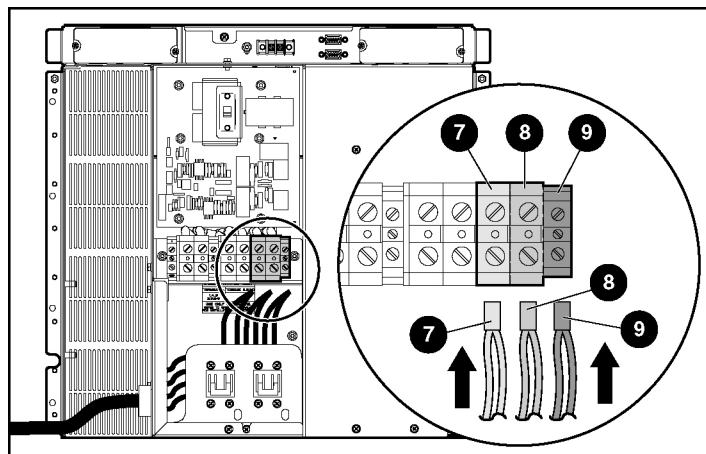


6. バックプレートソケットオプションをインストールします。

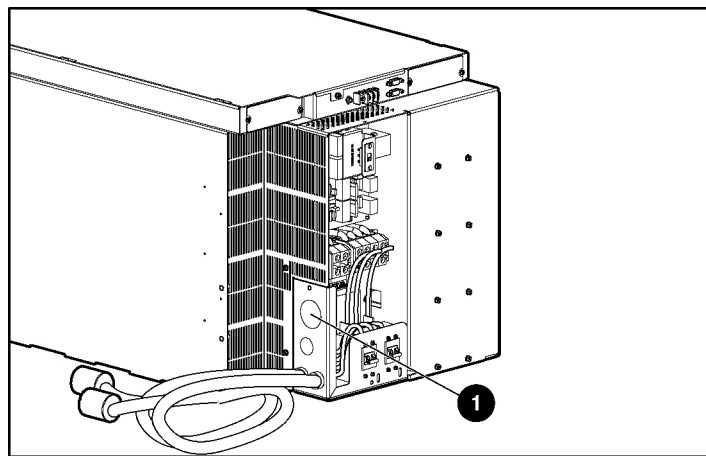


端子台を配線する

1. バックプレートソケットオプションの配線を接続します。



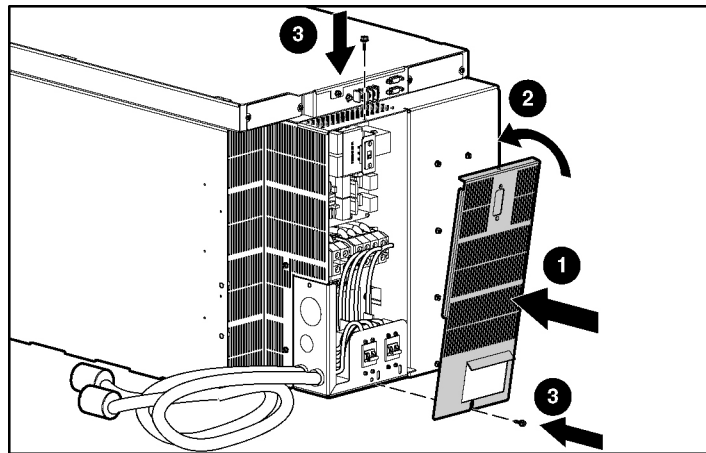
2. 入力配線を接続します。



番号	説明
1	入力配線用の穴

重要: ストランドにたるみのないことと、端子台の下の図に記載されているトルクの仕様に従って端子接続用ネジが締まっていることを確認してください。

3. UPSの端子台カバーを取り付けます。



インストールを完了する

1. バッテリーをERMに戻します。
バッテリーをERMに戻すには、本書の「拡張ランタイム モジュール内のバッテリーを取り外す」の手順を逆の順序で実行してください。
2. バッテリー モジュールおよび電子モジュールを元に戻します。
バッテリー モジュールおよび電子モジュールを元に戻すには、本書の「バッテリー モジュールおよび電子モジュールを取り外す」の手順を逆の順序で実行してください。

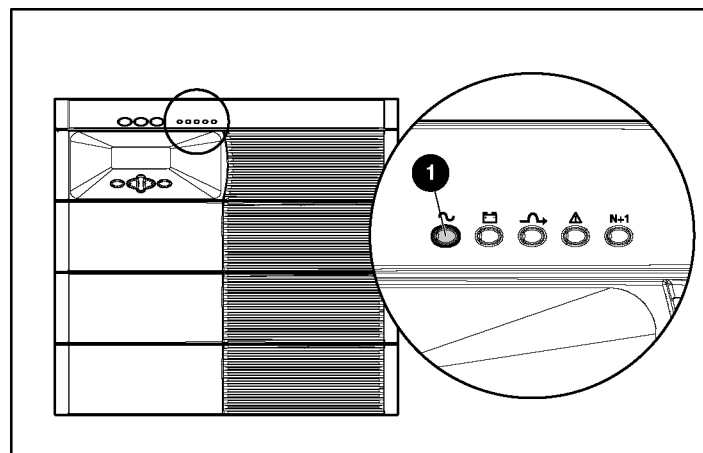


注意: 上側のバッテリー モジュールを挿入する際は、LED電源ケーブルを損傷しないようにしてください。

UPSに電源を入れる

1. スイッチまたはブレーカをオンにして、分電盤でAC電源を投入します。
 - システム初期化の過程で、すべてのLEDが3秒間点灯します。
 - 各モジュールは順に（モジュール間で約10秒間隔）電源が投入され、商用電源と同期します。
 - この起動プロセスの間、ユーティリティLED（1）は緑色で速く点滅します。
 - すべての電子モジュールの同期が完了すると、UPSはスタンバイ モードになり、ユーティリティLED（1）は緑色でゆっくりと点滅します。
 - システムはバッテリーの充電を開始しますが、負荷に電力は供給されません。
 - UPSは、UPSのOnコマンドを受信するまでは、スタンバイ モードのままです。

注: スタートアップ モードからスタンバイ モードに移るのに必要な時間は、バッテリーの充電状態によって変化し、45秒から数分間となります。



注: 商用電源を最初に供給する際、「インバータ コウセイ フノウ」アラームが生成されることがあります。Onボタンを押して自動較正プロセスを開始してください。自動較正には約2~4分かかります。このプロセスを開始するまで、UPSはスタンバイ モードのまま、アラームを鳴らし続けます。

注: UPSがバイパス モードではないことを確認してください。詳細については、UPSのユーザ ガイドを参照してください。

2. UPSの電源を入れます。

詳細については、HPのWebサイト <http://www.hp.com/products/ups/>（英語）を参照してください。